



肝ぞう通信

2023年度 第9号 《 腹部超音波検査でわかること 》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院1階
総合相談室

受付時間：
平日 9:00～15:00
土曜日 9:00～12:00
(第2・4土曜日除く)

豆知識

侵襲性が低い安全な腹部超音波検査では、主にびまん性肝疾患や肝腫瘍を評価します。

次回号

テーマ：
脂肪肝、NASHについて

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

腹部超音波検査って？

「超音波」とは聞くことを目的としない高い周波数（20キロヘルツ以上）の音と定義されています。

「腹部超音波検査」はこの超音波を用いて、お腹の中の状態を観察することが出来る検査です。超音波検査は被爆の心配がなく、一般的に侵襲性が低い安全な検査とされています。またリアルタイムで観察することが出来るため、消化管（胃、十二指腸、小腸、大腸）などの動き方の評価もすることが出来ます。

腹部超音波検査ではお腹にゼリーをつけて、呼吸調節をしながら検査を進めていきます。腹部超音波検査を受けたことがある患者さんは「どうしてゼリーをつけるの？」「どうして呼吸調節をするの？」「どうして体の向きを変えるの？」と疑問に思ったことはありませんか。その答えは超音波が空気の中を通過することが出来ない特性があるためです。機械（プローブ）とお腹の間をゼリーで埋めることで、空気を介さずに効率よく体の中に超音波を通過させることが出来るようになります。さらにゼリーによって皮膚上で機械の滑りがスムーズになる利点もあります。また呼吸調節や体の向きを変えることによって、臓器の位置が変わるため、消化管や肺の中の空気の影響も最小限にすることが可能となります。

右写真：超音波診断装置のプローブ

